

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 1~3月期の個人消費は高い伸びに (06年1月小売売上高)

発表日 : 06年2月14日(火)

~1月は暖冬、ギフトカードの使用増加等が押し上げ~

(No. UI-197)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畠 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

小売・飲食サービス売上高			耐久財関連 (*1)			非耐久財関連 (*2)		
	除く車		自動車	家具	家電		衣料品	ガソリン
05/01	▲0.4	(+7.7)	+0.5	▲2.3	▲3.5	▲0.0	+1.4	+0.8
05/02	+0.9	(+8.0)	+0.8	+1.1	+1.4	+0.9	+2.6	+0.7
05/03	+0.3	(+6.0)	+0.3	+0.8	+0.5	▲0.1	▲0.1	+0.2
05/04	+1.8	(+9.1)	+1.6	+2.0	+2.5	+0.4	▲0.1	+1.6
05/05	▲0.3	(+6.3)	+0.0	▲0.9	▲1.5	▲0.1	+0.2	+0.0
05/06	+1.9	(+9.8)	+1.0	+3.3	+4.8	+2.3	+0.1	+1.2
05/07	+1.7	(+10.3)	+0.5	+3.7	+5.7	+0.4	+0.5	+0.7
05/08	▲1.8	(+8.2)	+1.2	▲7.2	▲11.7	+1.5	+0.4	+1.4
05/09	+0.3	(+6.6)	+1.3	▲1.5	▲3.4	+1.1	+1.2	+1.3
05/10	+0.2	(+5.9)	+0.7	▲0.8	▲1.8	▲1.3	+0.5	+0.7
05/11	+0.9	(+6.8)	▲0.3	+3.9	+5.5	+1.1	+0.4	▲0.9
05/12	+0.4	(+5.8)	+0.2	+0.6	+1.2	▲1.1	▲1.0	+0.2
06/01	+2.3	(+8.8)	+2.2	+3.0	+2.9	+3.7	+2.0	+1.8

(出所) 商務省 (Department of Commerce)

(注) 数字は季調済前月比。但し、() 内は前年同月比(未季調)。

*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上の合計。

*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

**自動車を除く小売
売上高は同+2.2%
と市場予想を大幅
に上回った**

06年1月の小売・飲食サービス売上高は、自動車に加えて家具・家電、衣料品、ガソリン等で高い伸びとなったため前月比+2.3%と市場予想である同+0.9%を大幅に上回り、5ヶ月連続の増加となった(11、12月で合計0.2%ポイント下方改定)。

変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、価格が上昇したガソリン販売の拡大等によって前月比+2.2%と加速した。11、12月で合計0.1%ポイント上方改定されたもとで、市場予想の同+0.4%を大幅に上回った。また、価格変動の影響を受け易いガソリン販売を除く小売・飲食サービス売上高(自動車・ガソリン販売を除く小売・飲食サービス売上高)も、同+1.8%と12月の同+0.3%から加速した。1月の小売売上高は企業向けの販売が拡大した自動車、温暖な気温によって春物衣料が売り上げを伸ばした衣料品、温暖な天候により需要の拡大した建材の売り上げが増加した。さらに、クリスマスに受け取ったギフトカードが使用されたこと、ガソリン価格が上昇したことでも押し上げ要因となった。

基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は+6.0%(12月+7.7%)と高い伸びとなっている。また、自動車・ガソリン販売を除く小売・飲食サービス売上高も1月に+8.9%と高い伸びを維持しており、ガソリン価格が上昇に転じたものの、雇用・所得の拡大持続、住宅価格・

株価の上昇によって、個人消費は堅調さを維持している。

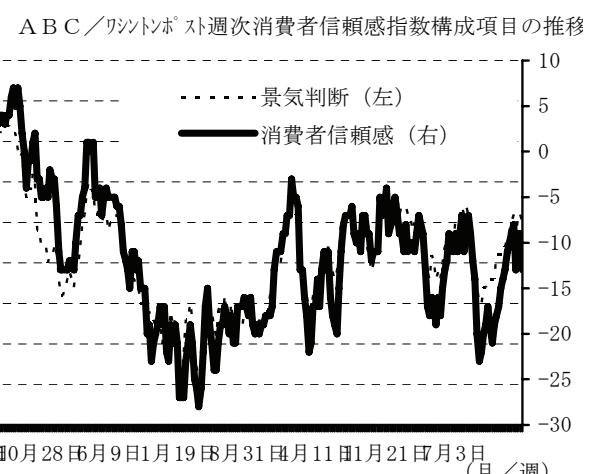
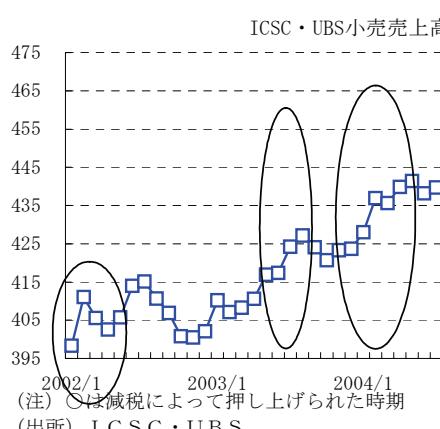
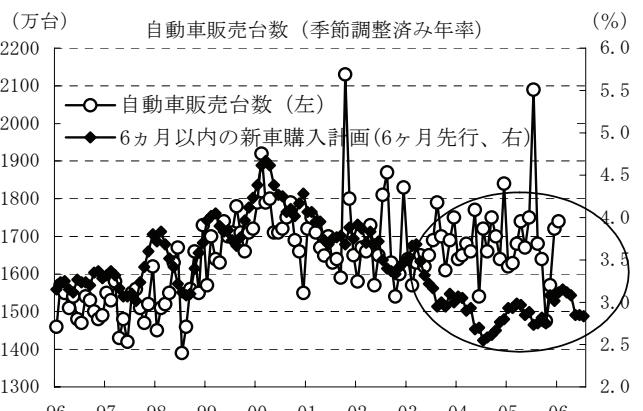
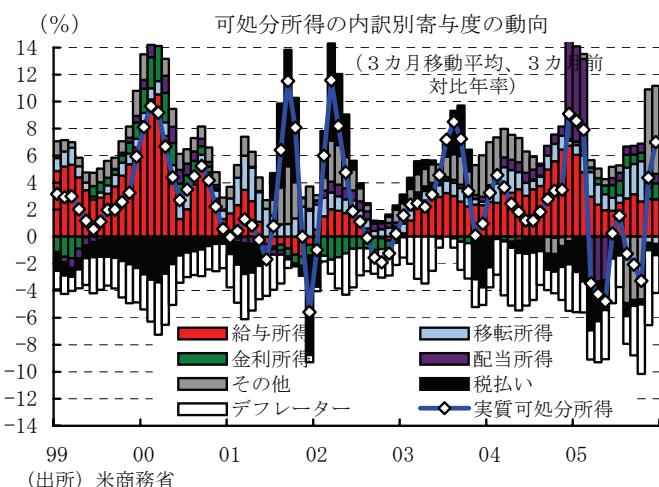
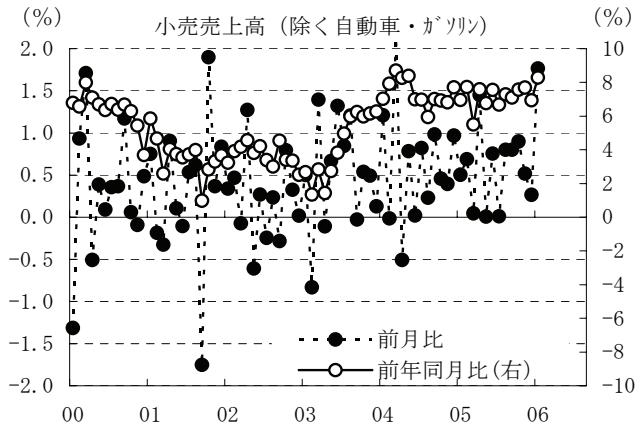
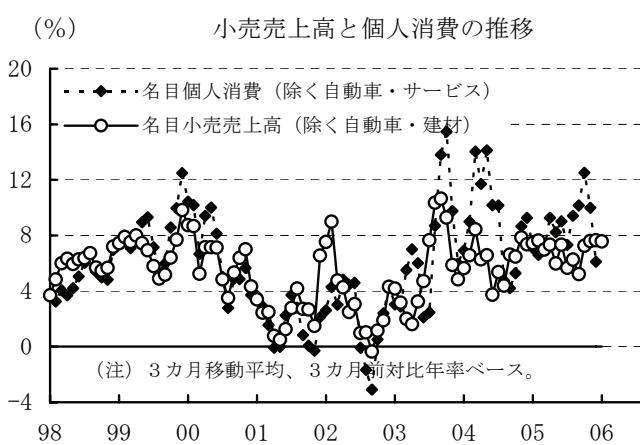
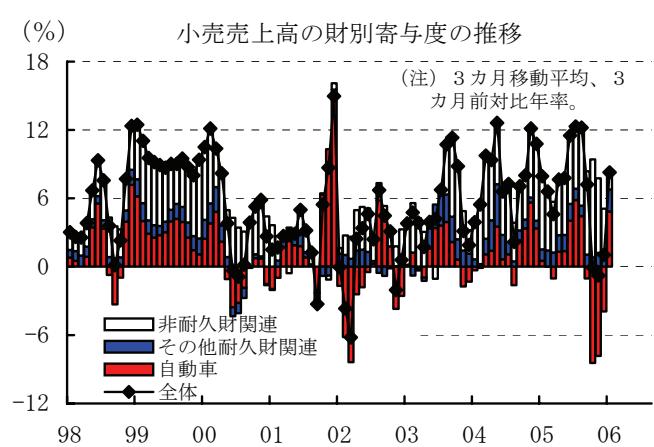
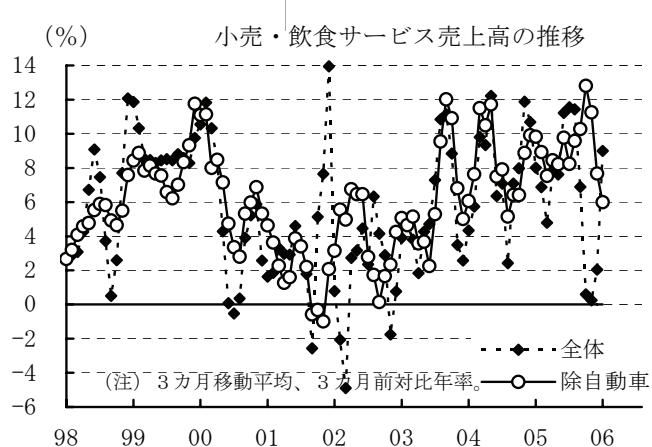
耐久財、非耐久財とともに拡大

財別の動向をみると、非耐久財関連では飲食料品店、スポーツ用品・書籍・趣味用品店が小幅鈍化し、通信販売が減少に転じたものの、薬局、百貨店等一般小売、飲食店が加速し、衣料品、建設資材店、ガソリンスタンドが増加に転じたことから、非耐久財は前月比+1.8%（同+0.2%）と加速した。他方、耐久財販売では家具、家電販売が増加に転じ、自動車販売が企業向け販売を増やしたことから同+2.6%と2ヶ月連続の拡大となり、耐久財は同+3.0%と加速した。

2006年1～3月期は個人消費の高い伸びが予想される

GDPベースの個人消費算出に使われる小売・飲食サービス売上高（除く自動車・ガソリン・建材）は、1月に前月比+1.5%（12月同+0.3%）と急加速し、10～12月期対比年率では+7.7%と10～12月期の前期比年率+7.7%と同率の高い伸びとなった。加えて、1月の自動車販売台数が季節調整済み年率1740万台と10～12月期の同1588万台から増加した。

2月入り後も、エネルギー価格の低位安定等によって消費者マインドが改善しているもと、2月第1、2週の小売売上高は1月対比+0.7%と1月の前月比+0.2%から加速している。今後、エネルギー価格が再上昇する可能性があるものの、雇用・所得の拡大や、株・住宅等の資産残高の増加等によって、目先堅調さを維持するとみられる。このため、2006年1～3月期の個人消費は10～12月期の前期比年率+1.1%から同+5%程度に加速する公算が大きい。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。